

沖縄市北部川崎川支流の上流部にある湿地帯等の有機フッ素化合物調査結果について

経緯・目的

- 県のこれまでの調査で、沖縄市北部にある産業廃棄物最終処分場内に溜まっている水等から高濃度の PFOS 等有機フッ素化合物（以下、「PFOS 等」という。）が検出されたため周辺河川の調査を実施したところ、川崎川（天願川の支流）の当該処分場から離れた下流側の地点において、他の地点と比較して高い濃度で検出された。
- 当該処分場とは別に何らかの汚染源があることが示唆されたことから、川崎川支流の上流部にある湿地帯の汚染状況を把握するため、令和4年2月に湿地帯内8地点で PFOS 等の調査を実施したところ、7地点で環境省が定めた暫定指針値（50ng/L）を上回る濃度の PFOS 等が検出された。
- 令和5年1月、湿地帯内7地点、周辺河川6地点で調査を行ったところ、湿地帯西側の地点で濃度が高くなっていること等から、汚染源となる PFOS 等は湿地帯西側からの表流水、あるいは地層中や旧谷地形（埋没谷）の底部を流れる地下水が湿地帯に湧き出すことによってもたらされている可能性が高いことがわかった。
- 令和5年度は、湿地帯及び周辺河川に加えて地下水の調査を行った。

結果

- 調査結果は下表のとおりで、調査した5地点中4地点で暫定指針値を上回る値が検出され、最も濃度が高かったのは地下水の11,000ng/Lであった。

表. 調査結果一覧（採水日：令和6年2月2日）

調査地点		PFOS	PFOA	PFOS + PFOA	PFHxS	6:2FTS
地下水	-	10,000	550	11,000	2,200	490
湿地帯	B	1,200	290	1,500	1,400	270
	D	1,200	350	1,500	320	540
	Q	41	7	48	6	22
周辺河川	8	610	250	870	1,100	270

※単位（ng/L）

※PFOS+PFOAの値は、数値の丸めの関係で合計値の和と一致しない場合がある。

今後の対応について

- 今回の調査結果について、関係機関との情報共有・連携を図りながら、湿地帯のモニタリングを継続し、汚染源の把握に向けて取り組む。